

地域コミュニティの 防災力

重川 希志依

連載 第7回

水害被災地とボランティア



重川 希志依

本年9月8日、台風9号が静岡県を直撃し、静岡県小山町で大きな被害が発生しました。前日夜の天気予報では、台風は日本海側を進むと予想され、北陸地域では嚴重な警戒が必要と報じていました。ところが、一夜明けてみると台風は予想外の進路をとり、静岡県と神奈川県が直撃されることとなったのです。

静岡県小山町の人口は2万人、富士山の南東

麓、神奈川県との県境に位置しており、富士山須走登山口や“足柄山の金太郎”が有名な町です。この小山町で、9月8日早朝から台風9号の接近に伴う記録的な大雨が降りました。小山町災害対策本部では役場庁舎と須走消防署に自前の雨量計を設置していましたが、当日午前7時からの1時間ごとの須走消防署の雨量は、7～8時21.5mm、8～9時68.5mm、9～10時89.5mm、10～11時104.5mm、11～12時74.5mmと、記録的な降雨が長時間にわたり続きました。10時間に降った雨は、役場周辺で403.5mm、須走消防署周辺で593.5mmに達したのです。

富士山麓は、富士山の噴火により大量の火山噴出物が地表に堆積しており、特に小山町のある南東斜面は、宝永の大噴火による堆積物が多いことで知られています。被害の様相は、①大規模な河川氾濫や土砂崩れのほかに、②大量の

地域コミュニティの 防災力 重川 希志依

土砂や倒木が橋梁にひっかかりダム化して水があふれ出し周辺一帯が浸水、③幅4～50cmの道路側溝を崩れた土砂がふさぎ床上・床下浸水を引き起こした、④処理しきれない雨水が地表に流出し道路一面が濁流化したなどとなっています。これに伴い、床上・床下浸水や全半壊を含め約150棟の家屋被害が発生しています。

しかしこれだけの記録的な豪雨と、それに伴う被害が町のいたる所で発生したにも関わらず、小山町住民には一人の犠牲者も出ませんでした。夜間でなく昼間の災害であったことも幸いしましたが、被害が生じた地域では、避難勧告が発令される前に自主避難が行われていたことや、豪雨の中、あえて屋外に避難せず自宅の2階に避難するという選択をした方たちもいたことなどが、死者ゼロに結びついた要因と思われます。

また橋梁の流失に伴い、橋に敷設されていた水道管も破壊され、市街地では5日間にわたり断水が続きました。残暑というよりもまだ猛暑の真っ只中の水害被災地で、断水が続くのは被

災者にとっても大変な苦痛を及ぼしたものと思われます。

台風襲来から2日目の9月10日、小山町社会福祉協議会はボランティアセンターを開設し、ボランティアの受付と派遣活動を開始しました。9月20日にボランティアセンターが閉鎖されるまでの間に、延べ約2,000人のボランティアの活動を支援しました。私の勤める富士常葉大学の学生たちも、このボランティア活動に参加し、屋内にたまった泥の掻き出しや水に浸かった家財道具の運び出しなどに従事しました。

水害の被災地での活動には長靴が欠かせません。また、連日35度近くまで上がる気温の中での屋外作業のために、熱中症対策や、ケガ・事故の防止、悪臭やまい上がる埃対策など、自分自身の安全管理には特に留意するようにと学生たちに注意を与えて作業にあたりました。幸い、ボランティア活動中のケガや事故などは発生せず、ボランティアが被災地に迷惑をかけるようなことは起こりませんでした。

水害による被害は地震と異なり、一度水に浸



写真1 氾濫を起こした野沢川



写真2 地盤が流出した住宅被害

地域コミュニティの 防災力 重川 希志依



写真3 1階天井付近に達した浸水被害

かってしまった物はゴミとして廃棄処分せざるを得ません。畳、カーペット、家具、食器、電化製品、衣類、靴など、日々意識もしないで使っていた日用品々が、すべて泥水で汚れたゴミになってしまうのです。この喪失感や無念さは、被災者にならなければ理解できないことでしょう。床上浸水被害を受けた、一人暮らしのお年寄りのお宅に被害調査に伺った時のことです。最初は家の中の被害箇所を説明しながら次々と部屋を見せて下さっていたのですが、台所に入った途端、急にその方が言葉を失い「生きていても何の意味もない」と嗚咽しはじめたのです。台所の流し台の上には、泥水に浸かった鍋や食器、調味料のビン、食材などが積み上



写真4 住宅の後片付けボランティア

げてありました。女性にとって最も慣れ親しんだ場所であろう台所の、全ての物をゴミとして捨てざるを得なくなってしまったことが、その方の生きていく気持ちを奪ってしまったように思えました。翌日、そのお宅に本学の学生ボランティアが後片付けの手伝いに入りました。JRを乗り継いで2時間かけてボランティアに通っていた女子学生です。水害により大きな被害を受けた被災者の方々に、「もう一度頑張ってみよう」という希望を持っていただくことができたのかどうか分かりませんが、日本中で起きている被災地でボランティアの果たす役割はとても大きなものだと思えて実感した水害となりました。